

《担当者名》医療薬学（薬理・薬剤・情報）系教員全員

【概要】

5年次の実務実習へ向け、4年次までに学習した医療薬学（薬理・薬剤・情報）系科目の基礎的事項について、問題演習を中心とした総合的なまとめの学習を行う。

【全体目的】

4年にわたって学習してきた医療薬学（薬理・薬剤・情報）系科目の個々の知識を統合し、考察できる。

【学修目標】

薬理学系・薬物治療系・病態系・臨床化学・生理学系科目、薬剤系科目、情報系科目の基礎的事項が十分理解できているかを再確認するため、コアカリキュラムに沿って自主的に問題演習を行う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ） 15	薬理学と薬物治療	以下の項目について問題演習を通して基礎的事項を概説できる。 ・中枢神経系、自律神経系、体性神経系、心臓血管系に作用する薬物、利尿薬、ホルモン、オータコイド ・平滑筋、血液と血液凝固、呼吸器系、消化器系、免疫系、皮膚に作用する薬物 ・抗炎症薬、痛風治療薬、ビタミン、抗悪性腫瘍薬、抗病原微生物薬 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)～(7)	飯塚 健治 泉 剛 大橋 敦子 柳川 芳毅 町田 拓自 水野 夏実
	病態と薬物治療	以下の項目について問題演習を通して基礎的事項を概説できる。 ・精神・神経系疾患、骨・関節疾患、免疫疾患 ・心臓・血管系疾患、腎・泌尿生殖器疾患 ・呼吸器疾患、耳鼻咽喉疾患、消化器疾患 ・血液・造血管系疾患、感覚器疾患、炎症 ・内分泌・代謝疾患、感染症 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)～(7)	飯塚 健治 泉 剛 大橋 敦子 柳川 芳毅 町田 拓自 水野 夏実
	臨床化学・生理総論	以下の項目について問題演習を通して基礎的事項を概説できる。 ・臨床化学 ・生理総論 ・機能検査用薬 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)	飯塚 健治 泉 剛 大橋 敦子 柳川 芳毅 町田 拓自 水野 夏実
16 ） 26	薬物の体内動態	以下の項目について問題演習を通して基礎的事項を概説できる。 ・生体膜透過 ・吸収 ・分布 ・代謝 ・排泄 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E4-(1)	小林 道也 小田 雅子 伊藤 邦彦 中川 勉 久保 儀忠
	薬物動態の解析	以下の項目について問題演習を通して基礎的事項を概説できる。	小林 道也 小田 雅子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<ul style="list-style-type: none"> ・薬物速度論 ・TDM (Therapeutic Drug Monitoring)と投与設計 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E4-(2)	伊藤 邦彦 中川 勉 久保 儀忠
	製剤化のサイエンス	以下の項目について問題演習を通して基礎的事項を概説できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・製剤の性質（固形材料、半固形・液状材料、分散系材料、薬物及び製剤材料の物性） ・製剤設計（代表的な製剤、製剤化と製剤試験法、生物学的同等性） ・Drug Delivery System：薬物送達システム（DDSの必要性、コントロールドリリース（放出制御）、ターゲティング（標的指向化）、吸収改善） 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E5-(1),(2)	小林 道也 小田 雅子 伊藤 邦彦 中川 勉 久保 儀忠
27) 30	薬物治療に役立つ情報の収集・評価・活用	以下の項目について問題演習を通して基礎的事項を概説できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品情報 ・EBM、生物統計 ・患者情報 ・個別化医療 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(8)- , 、E3-(1)～(3)	小林 道也 小田 雅子 伊藤 邦彦 中川 勉 久保 儀忠

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による。

【評価方法】

試験(100%)の結果で評価する。

【教科書】

コアカリ重点ポイント集 Vol. 2〔改訂第8版〕薬学ゼミナール
コアカリ・マスター Vol. 2〔改訂第8版〕薬学ゼミナール

【参考書】

これまでに使用した薬理系・薬剤系・情報系の教科書

【備考】

必要に応じて講義プリントを配布する。

【学修の準備】

- ・指定された教科書を活用して、基本的知識について復習しておくこと。(80分)
- ・当日の授業範囲を予習し、あらかじめ疑問点等を把握しておくこと。(80分)
- ・授業終了時に練習問題等を課した場合は、次回の授業までに解答しておくこと。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

E 医療薬学

E1 薬の作用と体の変化

(2) 身体の病的変化を知る

E2 薬理・病態・薬物治療

(1) 神経系の疾患と薬

(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬

(3) 循環系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬

(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬

(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬

(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬

(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬

(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報

E3 薬物治療に役立つ情報

(1) 医薬品情報

(2) 患者情報

(3) 個別化医療

E4 薬の生体内運命

(1) 薬物の体内動態

(2) 薬物動態の解析

E5 製剤化のサイエンス

(1) 製剤の性質

(2) 製剤設計

(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。